



人文・社会科学系研究の特性と 強みのアピールについて考える

August 30, 2017
京都大学 学術研究支援室

稲石奈津子

KURA

セッションの構成

- **趣旨説明**（5分）

司会・稲石奈津子（京都大学 学術研究支援室URA）

- **事例紹介**（10分）

**「京大新刊情報ポータルを通して見た人文・社会科学系研究の
成果発信の特徴」**

講師：森下明子（京都大学 学術研究支援室URA）

- **話題提供**（15分）

「媒介としての本、媒介者の技」

講師：鈴木哲也氏（京都大学学術出版会 専務理事・編集長）

- **コメント**（10分）

講師：布野修司氏（日本大学 生産工学部 特任教授）

- **ディスカッション**（50分）

パネリスト：鈴木哲也氏、布野修司氏、森下明子URA

* ご質問のある方は配布の質問用紙に予めご記入下さい。

人文・社会科学系研究支援プログラム

- ・ 外部資金獲得プロジェクト

- ・ **資源整備・成果発信プロジェクト**

- ・ **研究力の可視化プロジェクト**



京大新刊情報ポータル

研究力の可視化に関する取り組み

可視化

評価・指標

日本 =
指標やフォーマット
による可視化の模索中

Question.1)

人社系の特性に沿った指標とは？

- ・ 筑波大学・大阪大学との協働による
レピュテーション調査
- ・ REFのインパクトレポート

学術政策

研究評価制度
評価指標

資源配分

研究評価制度が
確立された国

Question.2)

指標ができたらどのような
ことが起こり得るのか？

- ・ 第21回KURA研究会(2017/3/13)
「英国における研究評価制度REF
を巡って」

人文・社会科学系学問分野の特性
・ アウトプット特性に関するヒアリング

Question.3)

指標によらず人社系学問の
意義と必要性を伝えるには？

プロデュース力と媒介者の必要性

・・・日本語から英語に言葉を変えたところで、それだけでは海外の読者を引きつける日本の強みを発揮したことにはならない。

裏を返せば、**アピール力のある強みを引き出すプロデュース力が日本の文系学問に求められているということだ**。それに熟知したアドバイザー（海外の研究と日本の研究との橋渡しとなる専門家）も必要だろう。

中央公論 2017年2月号

特集：予算重点化でもランキング低迷 国立大学は甦るか

「日本の文系学問が国際貢献する方法」 苅谷剛彦（オックスフォード大学教授）

プロデュース

日本で通常使用されているケースは和製英語であり、英語における“produce”の本来の意味と日本語の「プロデュース」とでは全く意味が異なる。**日本においては、様々な方法を用いて目的物の価値をあげることを指す。**

- ・プロデューサー：制作活動の予算調達や管理、スタッフの人事などをつかさどり、制作全体を統括する職務。

(Wikipedia)

講師紹介

鈴木哲也氏

1957年生まれ。京都大学学術出版会専務理事・編集長。京都大学文学部および教育学部に学び、民間編集プロダクションでライター・編集者として活動の後、1996年より京都大学学術出版会編集次長、2006年より現職。著書に『学術書を書く』（高瀬桃子と共著、2015年）、『京都の戦争遺跡をめぐる』（池田一郎と共著、1996年）など。大学出版部協会理事、日本書籍出版協会評議員。

大学学術出版の編集者という媒介者・プロデューサーとしての立場から

布野修司氏

建築評論家・工学博士、1949年島根県生まれ。日本大学生産工学部特任教授。東京大学大学院博士課程修了後、東京大学助手、東洋大学助教授、京都大学助教授を経て、2005年より滋賀県立大学環境科学部教授に就任。日本建築学会建築計画委員会委員長、英文論文集委員長。元『建築雑誌』編集委員長。日本建築学会賞論文賞(1991年)、日本都市計画学会論文賞(2006年)。日本建築学会著作賞(2013年、2015年)。

滋賀県立大学副学長・研究評価担当理事として、大学運営を経験された立場から、また工学と人文学の境界領域である建築学・都市計画学研究者としての立場から

話題提供・ディスカッションのテーマ

1. **研究評価・大学評価の在り方**に問題は無いかな
2. 人文・社会系の学問が抱える**内在的な問題点**は無いかな
3. 領域と領域, 研究（大学）と社会を繋ぐ**媒介専門家の役割**
4. **他の領域,** また広く**社会と研究**をどう繋ぐか